

# そらあみ

いがらしやすあき  
五十嵐 靖晃

2012年10月25日[木]—11月11日[日]

|平日=14:00—17:00|土日・祝日=10:00—16:00|

|月曜休|会場=浅草神社(台東区浅草2-3-1)※雨天時は中止になることがあります。

浅草神社の境内で、浅草神社や浅草寺、そして浅草地域一帯の歴史に深く関わる「網」を編みながら、浅草繁栄の歴史・風景を想起する参加型の作品です。

会期中は浅草神社の社紋にもなっている3人の祭神(三社様)に由来する柱を神社の境内に立て、会場にお越し頂いた方々と網を編むワークショップを行います。

[主催] GTS(藝大・台東・墨田)観光アートプロジェクト実行委員会 [協力] 浅草神社 浅草観光連盟 仲見世商店街振興組合  
[そらあみサポートスタッフ] 塩野谷卓 [お問い合わせ] GTS観光アートプロジェクト事務局 〒110-0004 東京都台東区下谷1-12-8 旧坂本小学校2F  
TEL: 03-3843-8441(代) FAX: 03-3843-8443 E-Mail: gtssap.info@gmail.com URL: <http://gts-sap.jp/>

# そらあみ | 五十嵐 靖晃

浅草神社境内にて、空に向かって漁網(10m×10m程度)を編み上げ、浅草神社と浅草寺、ひいては浅草のはじまりを想起させる風景を、地元浅草に住む方々を含む一般参加者と共に作り出す参加型アートプロジェクト。空に垂直に張られた漁網は、むこうに透けて見える風景をつかまえる装置となる。そこには、ご秘仏である觀音さまをはじまりとした浅草の歴史がある。プロジェクトを通して、見えないものを大切にする日本人本来の精神性を、あらためて問なおす。

飛鳥時代、推古天皇36年(628)3月18日の早朝、檜前浜成・竹成(ひのくまのはまなり・たけなり)の兄弟が江戸浦(隅田川)に漁撈(ぎょろう)中、はからずも、漁網で一財の觀音さまのご尊像を感得(かんとく)したところから始まり、土地の物知りであった土師真中知によってこれが觀音さまであることを告げられた。今回「そらあみ」を行う浅草神社には、この3人が御祭神として祀られている(三社様)。広漠とした武藏野の一画、東京湾の入江の一漁村にすぎなかつた浅草は参拝の信徒が増すにつれ発展し、現在は年間約3000万人もの参詣者がおとずれるようになった。

会期中、参加者が漁網を編む姿は、かつて漁村だった頃の浅草の原風景であり、そこから生まれる景観が、浅草のはじまりを見つめなおすきっかけとなって、1384年前に漁網を介して、檜前浜成・竹成(ひのくまのはまなり・たけなり)の兄弟が觀音さまに出会った時のように、現代社会を生きる人が、自分なりに觀音さまと出会う、新たな入口となるだろう。

## 作家プロフィール



### 五十嵐 靖晃

いがらし やすあき

1978年 千葉県生まれ  
2003年 東京藝術大学卒業  
2005年 東京藝術大学大学院修了  
[www.igayasu.com](http://www.igayasu.com)

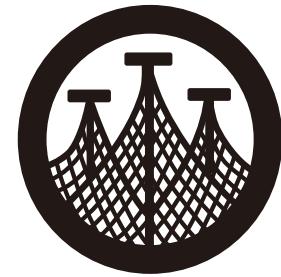
土地に住み、その日常に入り込み、そこで出会う人達と共に、普段の生活の中に新たな視点と人の繋がりをつくるプロジェクトを各地で展開している。

## 近年の活動

- 2010年 太宰府天満宮境内にて、樟の落ち葉を掻いて集めて、かつて存在した千年樟を描き出すアートプロジェクト「くすかき」を行う。／「種は船in舞鶴」のドッグマスターとして現地に滞在し、地域の素材や技術、人々とともに舞鶴発の自走する「船」づくりを目指し、1分の1サイズの模型制作を行う現場の指揮をとる。
- 2011年 プーテン王国にて、空の下に空をつくり、学校の中に学校をつくるワークショップ「School of Sky」をアーティストの北澤潤と行う。／太宰府天満宮境内にて、樟の落ち葉を掻いて集めて、かつて存在した千年樟を描き出すアートプロジェクト「くすかき」を行う。／三宅島にて、東京文化発信プロジェクト室における拠点形成事業「東京アートポイント計画」のアートプロジェクトとして展開される「三宅島大学プロジェクト」のリサーチに参加。ひょんなことから島一番のベテラン漁師に弟子入りし、漁網の編み方を学ぶ。今後、網を編むことをベースにプロジェクトを展開予定。／「GTS」芸大・台東・墨田観光アートプロジェクトの「サクサス+」参加メンバーとして、浅草の各商店で使わなくなった紙から巨大な1枚の紙を作成し、神輿のようにして練り歩きながら町の音を聞くワークショップ「浅草紙鳴物(あさくさかみなりもん)」を行う。
- 2012年 「座・高円寺」へあしたの劇場「みんなの作業場」にて、ダンボールを素材に子供達と一緒に大きな船をつくるワークショップ「みんなの作業場号で世界一周クルーズ」を行う。／金石市内の仮設住宅にて、東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業「Art Support Tohoku」の金石アート支援プログラムとして約1ヶ月間現地滞在し、津波で流された漁網用の糸を使って仮設住宅に住む方々と共に空に向かって網を編む「そらあみ」を行う。／太宰府天満宮境内にて、樟の落ち葉を掻いて集めて、かつて存在した千年樟を描き出すアートプロジェクト「くすかき」を行う。／「種は船～航海プロジェクトfrom舞鶴」の船長を務め、舞鶴から新潟まで、約30港を寄港し、漁師らとの交流や海上での経験を通して、海からの視座で日本を見なおす航海を行う。その約80日間の出来事を航海日誌をとしてインターネットで発信。また寄港先でワークショップを行う。

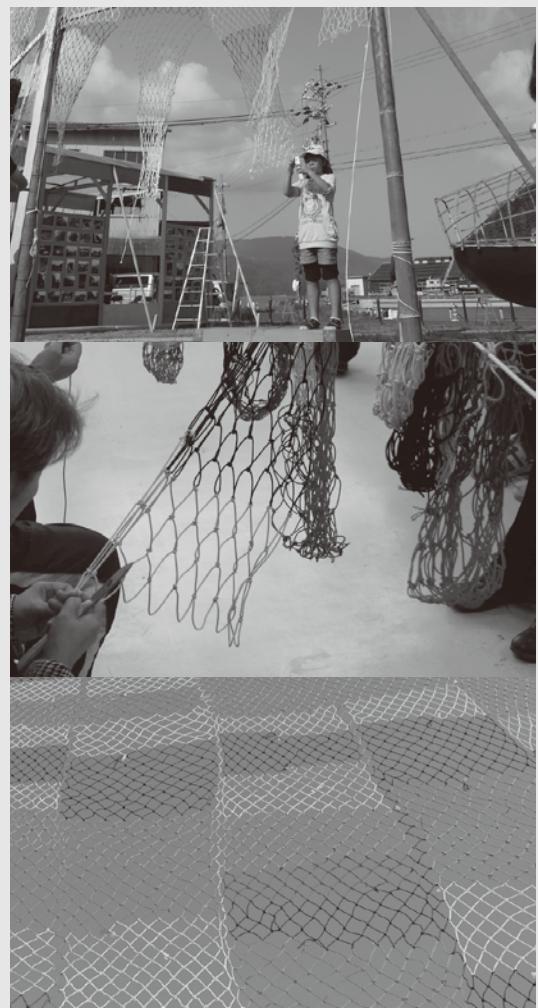


[上] 浅草神社境内



[左] 浅草神社の社紋(しゃもん)となっている「三編み紋」。3つの柱状の図形は、三社様である檜前浜成・竹成、土師真中知をあらわしている。

「そらあみ」たけたて | 2012年10月25日10:00～| 浅草神社境内  
プロジェクト初日に、浅草神社の三編み紋にちなんだ、「そらあみ」の支柱となる竹を3本、境内に立てます。一緒に竹をたてながら、プロジェクトをスタートさせましょう!



[上]「そらあみ」を編む女の子(舞鶴, 2011) [中] 地元の人たちと「そらあみ」を編む(金石仮設住宅, 2012)  
[下] 空にかけられた「そらあみ」(金石仮設住宅, 2012)